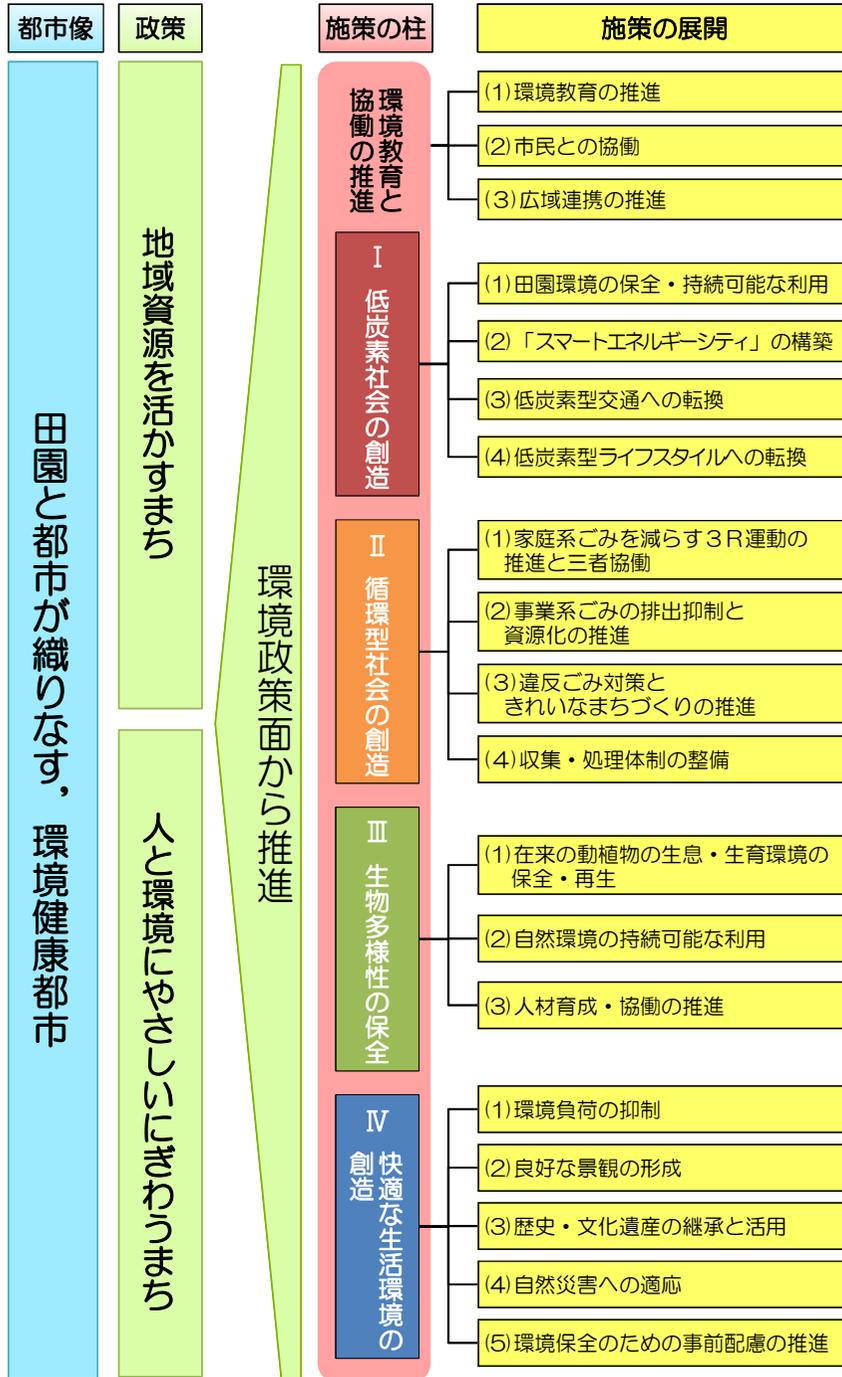


# 第3次新潟市環境基本計画の進捗状況について

## 1. 施策の大綱(新潟市の環境 冒頭掲載)



## 2. 評価指標の達成状況(新潟市の環境 p15,p22,p27,37)

I 低炭素社会の創造	計画策定時点 (平成25年度)	実績 (平成29年度)	目標 (平成30年度)
市域の温室効果ガス排出量	710万t-CO <sub>2</sub> ※ <sub>1</sub>	661万t-CO <sub>2</sub> ※ <sub>2</sub>	624万t-CO <sub>2</sub>
もみ殻などのバイオマスエネルギーの活用	—	モニター事業で活用	活用の実現
太陽光発電システム導入量(10kW未満)	18,000kW	30,265 kW	36,000kW
自動車利用の削減	—	2.6%増加	2.5%削減※ <sub>3</sub>
1世帯あたりの電気使用量(年間)	3,612kWh	3,334kWh	3,160kWh

※<sub>1</sub> 基準年度である平成17年度の排出係数を使用し、当該項目のみ平成23年度の排出量を記載  
また、排出量算定方法の見直しを実施したため、計画策定時の数値と異なっている。  
※<sub>2</sub> 基準年度である平成17年度の排出係数を使用し、当該項目のみ平成27年度の排出量を記載  
※<sub>3</sub> 1日あたりの自動車総トリップ数の平成23年からの削減率

II 循環型社会の創造	計画策定時点 (平成25年度)	実績 (平成29年度)	目標 (平成31年度)※ <sub>1</sub>
家庭系ごみ量※ <sub>2</sub> (1人1日あたり)	501g	487g	474g
事業系ごみ排出量	84,962t	79,267t	74,500t
リサイクル率※ <sub>3</sub>	27.2%	26.7%	30.9%
最終処分量※ <sub>4</sub>	29,213t	22,319t	21,800t

※<sub>1</sub> 平成32年度に当該項目における評価を実施し、目標を再設定  
※<sub>2</sub> 家庭系ごみ量:「可燃ごみ」「不燃ごみ」「粗大ごみ」「家庭系直接搬入量(有料分)」の合計  
※<sub>3</sub> リサイクル率=資源化量/総排出量(環境省一般廃棄物処理事業実態調査より)  
※<sub>4</sub> 資源化又は再利用されるものを除き、最終的に埋め立て処分される廃棄物の量

III 生物多様性の保全	計画策定時点 (平成25年度)	実績 (平成29年度)	目標 (平成34年度)
生物多様性の象徴としてのハクチョウとの共存	日本一の越冬数	現状を維持	現状を維持
特定外来生物※ <sub>1</sub> の種類	10種	11種	現状より減少
環境保全型農業を実施する農地の割合※ <sub>2</sub>	34.4%	35.4%	50%

※<sub>1</sub> 日本在来の生物の生活をおびやかす外来生物を国が定めたもの  
※<sub>2</sub> 主食用水稲作付面積に占める化学合成農薬・化学合成肥料を5割以上削減した栽培面積の割合

IV 快適な生活環境の創造	計画策定時点 (平成25年度)	実績 (平成29年度)	目標 (平成34年度)
生活環境における空気のきれいさ※ <sub>1</sub> 、沿道における空気のきれいさ※ <sub>2</sub>	0.007ppm 0.009ppm	0.007ppm 0.009ppm	現状より低減
水がよりきれいなランク※ <sub>3</sub> になった河川・湖沼の水域数	—	0	3地点
食育・花育センターが実施する花育体験プログラム等の実施団体数	30団体	78団体	70団体
保育所、幼稚園、小学校の地域との連携による花育活動実施率	48%	53%	60%
植栽やビオトープづくり等、美しい農村景観の形成を行う農地の割合※ <sub>4</sub>	78%※ <sub>5</sub>	85.7%	93.2%

※<sub>1</sub> 一般環境大気測定局における二酸化窒素濃度  
※<sub>2</sub> 自動車排ガス測定局における二酸化窒素濃度  
※<sub>3</sub> ランクとは、河川・湖沼の種類(AA, A, B, C, D, E)に相当するようなきれいさとし、項目としてBOD75%値/COD75%値で評価  
※<sub>4</sub> 農地、水路、農道等の質的向上を図る共同活動を支援する「資源向上支払交付金」の対象農地の割合  
※<sub>5</sub> 当該項目のみ平成26年度の数値を記載